



岩村町西町
おぎやま ぜんそう
荻山 善蔵 さん (91歳)

□プロフィール

岩村町生まれ、岩村町育ち。商店を営む傍ら、選手として長年大会に参加し、地元の中中学生への指導にも力を注いできた。



▲新年射会で弓を構える荻山さん(1990年1月撮影)

弓道との出会いは昭和18年、弓道歴は76年。荻山さんは市弓道連盟顧問であり、教士六段の腕前。国体にも選手として6回出場し、1979年の宮崎国体では3位入賞。監督、コーチとしても4回出場した。「1977年の青森国体には、夜行列車を乗り継いで行った。何泊もかけて大変だった」と、昔を思い出しながら懐かしむ。

弓道一家に生まれ、2人の兄が弓道部に所属していることもあり、同じ旧中津川商業高等学校の弓道部に入学した。30代から40代は選手として特に活躍。そんな中で気付いたのが、続けることの大切さだった。「練習は毎日続けることが大切で、時間の長さではない。1日4本でも、1本1本を大切に練習を続けていくことで『無の境地』に至る」と話す。長年続ける、道場に入る瞬間から全ての欲が消えて無駄な力が入らず、弓道だけに集中することができるという。「そんな境地に至るまでが大

弓道は人生そのもの
県スポーツグランプリ表彰を受賞

変。それまでは自分との戦いと、自身を振り返る。

選手として活躍する傍ら、72年もの間、地元の中学校や高校で指導にも力を注いできた。指導する中で大切にしていることは、基本を大切にすること。弓道には一連の流れがあり、しっかりと体に覚えさせる必要がある。練習を通して集中力が生まれ、礼儀作法も身に付き、健やかな社会性を育むことにつながる。生徒の中には、全国大会に出場した生徒もいる。今でも交流があり、「教え子が声を掛けてくれるとうれしい。昔話をすると楽しい」と顔をほころばせる。

今年2月、長年の功績が認められ、第14回県スポーツグランプリの表彰を受けた。「長年弓道を続けてきて良かった。一番うれしい」と、喜びをかみしめる。

始めて以来、一度も辞めたいとは思ったことがない弓道。弓道に対する情熱は尽きることなく、人生そのものだ。



その他の話題もウェブサイトに掲載

3/29

子どもたちと地元が
一体となった取り組みが評価



令和3年度みどりの少年団活動発表大会の県大会で、中野方小学校みどりの少年団が最優秀賞を受賞しました。当時5年生の鈴木みらのさん(左)は「受賞は皆さんのおかげ」、小坂芽依さん(右)は「活動を通じて、良い経験になりました」と受賞の喜びを話しました。

3/28

ごみ処理の広域化に向けて



ごみ処理の広域化について中津川市と話し合いを始めるため「中津川市・恵那市ごみ処理広域化の推進に関する基本合意書」を締結しました。今後は建設場所や施設規模、処理方式など両市で協議を開始し、広域化への事業を進めていきます。

4/2.3

恵那峡さくらまつり



恵那峡公園で恵那峡さくらまつりが開催され、2日間で約3,000人が春の恵那峡を満喫しました。

「えなマルシェ」には、2日に31店舗、3日に24店舗が出店し、五平餅や栗きんとんなどの特産品を販売しました。

にぎわい広場では、市茶道連盟による「さくら茶会」が行われ、親子連れらが桜を見ながら、抹茶と和菓子を楽しんでいました。ウッドデッキ広場ではキッズダンスやライブが行われ、子どもたちの笑顔が会場を盛り上げました。

恵那峡公園は、約200本のソメイヨシノが咲き誇る市を代表する桜の名所。開花時期に合わせ、夜には桜のライトアップも行われ、昼間の美しさとは違う幻想的な景色を作り出していました。



4/5

ファーストマイスプーンを
プレゼント



木の温もりを感じながら子どもたちが健やかに育つことを応援しようと「ファーストマイスプーン」事業が始まりました。これは、市内産の木で一つ一つ手作りされた木のスプーンを、出生祝いとして贈るもの。本年度から、毎月の4か月児健診でプレゼントされます。

4/3

道の駅おばあちゃん市・山岡
リニューアルオープン



昨年12月から改修工事を行っていた道の駅おばあちゃん市・山岡がリニューアルオープン。初日には、待ち望んだ多くの人々が訪れ、約3か月ぶりの買い物を楽しみました。明るくなった店内には、地元産の野菜や道の駅自慢の手作り弁当、総菜などが所狭しと並んでいました。